

岩見沢市医師会附属看護高等専修学校 校歌

作詞 鎌田 巖
作曲 斉藤侑子



4
ポ プ ラ な み き に つ つ ま れ

8
し この ま な び や に つ ど い た

12
る わ こ う ど わ れ ら あ い と も

17
に み と り の み ち を ま な び な ん

あ あ あ い わ み ざ わ せ ん し ゅ う が っ こ う

- 三
あ あ 岩見沢専修学校
奉仕の業に身を捧げん
わが身にしかと抱きしめて
ナイチンゲールの誓いをば
やがて巣立ちしあしたには
- 二
学び修めん一筋に
看護の道の尊さを
人類愛に根ざしたる
悩める人を救うため
- 一
この学舎に集いたる
若人われら相共に
看護の道を学びなん
ポプラ並木につつまれし



岩見沢市医師会附属看護高等専修学校

〒068-0030 北海道岩見沢市10条西3丁目1-4
TEL.0126-22-5347/FAX.0126-22-5347



第52回

祝 卒 業

*Congratulations
on your graduation*

令和2年3月

岩見沢市医師会附属看護高等専修学校

令和2年度 卒業式 式辞



岩見沢市医師会附属看護高等専修学校 第52期卒業生の皆さん、本日はご卒業おめでとうございます。

併せて、今日のお慶びを迎えられた御家族の皆様、卒業までの道のりを心身ともに支えられたことに敬意を表し、心からお祝い申し上げます。

本校は昭和42年の設立以来、昭和、平成、令和時代の3時代、52年間に亘り、二千二百余名の准看護師を養成し続け、岩見沢市のみならず北海道の地域医療の一翼を担ってまいりました。

営々と積み重ねられた歴史が半世紀以上の時を刻み、ここに本日、令和時代初となる第52期卒業生を輩出することは、諸先輩ならびに関係者一同にとって格別な誇りと喜びであります。

どうか皆さんには、この誇りと喜びを胸に、本校で学んだ知識と技術を存分に生かし、地域医療に貢献していただきたいと心から願う次第です。

さて、本年はナイチンゲール生誕200年の節目の年であります。

この記念すべき年の卒業にあたり、ナイチンゲールの「病人と健康を守る看護」の一節を紹介します。

「看護師は自分の仕事に三重の関心をもたなければならない。ひとつは症例にたいする理性的な関心、二つ目は患者に対する心のこもった関心、三つ目は看護と治療についての具術的な関心である。」

現代の看護師にとって必要な関心とはどのようなことでしょうか。

一つめは根拠ある判断のもとに看護計画を立案し、真摯に実践すること。そのために身体、精神両面をベストな状態に保つことです。我々は人の命と向き合って仕事をしていることを深く自覚しなければなりません。

二つめは病に悩み、不安を抱く患者さんやそのご家族の心と向き合い、寄り添うことです。看護が単に「命を救う」ととどまらず、「その命を輝かせる」ことができるよう、患者さん一人ひとりと向き合い、自立へ向けサポートしましょう。

三つ目は弛まぬ、努力により、可能な限りの高度で最新の医療技術を提供することです。常に知識のアップデートを繰り返し、専門的知識と医療技術を追求し、生涯にわたり自己研鑽を続けることが必要です。

そしてもう一点、私から大事な着目点を追加したいと思います。

それは環境変化への対応です。

昨年令和という新時代を迎え、今年オリンピックイヤーの日本は、超少子高齢化社会という大きな「うねり」の中に突入しました。

医療は2025年をターゲットに「病院完結型医療」から「地域型医療」、すなわち「在宅医療への構造改革」が推し進められている最中にあります。

また一方で、新型コロナウイルス感染症の世界的流行が連日報道されています。

医療機関と行政が連携して対策を講じていますが、残念ながら道内においても感染患者が発生し、中には重症化する例も報告されています。

超少子高齢化という中長期的変化と新型感染症という突発的な状況変化、図らずも皆さんは未曾有の環境変化の渦に飛び込むこととなります。

かつてない程の緊張感に満ちた門出です。

求められる看護師の役割が拡大し、多様化する中、皆さんは他職種との連携を深めつつ、変化する状況に柔軟かつ積極的に貢献し、地域の負託に応えてください。

卒業生の皆さん、どのような環境の中にあっても、皆さん方が、常に自己研鑽に励み、地域の医療と健康に貢献できる、素晴らしい看護師として活躍されることを祈念して、式辞といたします。

第52期卒業生の皆さん、本日はご卒業おめでとうございます。

学事報告

入学時	復学	2年進級留置	退学	原級留置	卒業延期	卒業時
40名	1名	3名	2名	1名	1名	34名
成績優秀賞3名(名簿参照)						

月 日	1 学 年	月 日	2 学 年
H30.4.7	入学式	R1.5.27	研修旅行
4.9	オリエンテーション	5.28	臨地実習開始
4.13	歓迎会(2年生主催)	7.23	球技大会
6.18	校外学習 「岩見沢市絵画ホール」	7.29	夏期休暇(~8/16)
7.13	観光おどり参加	9.2	健康診断
7.23	球技大会	9.9	全国准看模擬試験(1)
7.30	夏期休暇(~8/17)	9.30	前期終了
9.3	健康診断	10.21	後期開始
9.30	前期終了	11.1	施設実習終了
10.11	後期開始	11.13	全国准看模擬試験(2)
10.5	戴帽式	11.19	ケーススタディ・実習発表会 (~11/29)
10.27	市民文化祭 「音楽のつとめ」出演	12.20	冬期休暇(~1/9)
12.11	基礎実習開始	R2.11.10	全国准看模擬試験(3)
12.21	冬期休暇(~1/10)	2.5	北海道准看護師資格試験
H31.2.4	基礎実習終了	13.5	2年生を送る会
2.18,25	普通救命講習	3.7	同窓会入会式・卒業式
3.21	春期休暇(~4/3)		

令和2年3月7日

岩見沢市医師会附属看護高等専修学校

校長 得地 史郎



第52回 卒業生名簿

出席番号	氏名	所属機関	賞	出席番号	氏名	所属機関	賞
2				21			
4				22			
5				23			
6				24			
7				25			
8				27			
9			成績優秀賞	28			成績優秀賞
10				29			成績優秀賞
11				32			
12				33			
13				35			
14				36			
15				37			
16				38			
17				39			
18				40			
19				41			
20							

計35名

送 辞

厳しい冬の寒さも終わりが近づき、暖かな春の訪れを感じる季節となりました。

本日、ご卒業を迎えられた第五十二期生の皆様、おめでとうございます。

在校生一同、心よりお祝い申し上げます。

入学してからの二年間、学業と仕事の両立、そして数々の困難を乗り越えながらも夢に向かい奮闘し、この時を迎えられる先輩方の姿はとても輝いて見えます。

昨年の春、入学して間もなく、緊張や不安でいっぱいだった私たちを、先輩方は温かく迎えて下さいました。

新入生歓迎会では、学内の事や日々の勉強法など親切に教えて下さり、とても心強く感じたことを憶えています。

研修旅行や球技大会など様々な行事で仲間との絆を深め共に楽しみ、学ぶこと、クラス全員が協力し合い一つのことを成し遂げる大切さを学ばせていただきました。

また、実習報告会の発表では、様々な視点から観察することの大切さ、個性を捉えた看護の大切さを学びました。

私たち一年生も、数ヶ月後には臨地実習が始まります。疾患の理解や対象との関わり方で悩み、力不足を痛感することも多々あると思います。そんな時には先輩方のやり遂げた姿を思い浮かべ、自分の姿勢を見直し、仲間と切磋琢磨しながら励んでいきたいと思います。そして一年後、先輩方の様に自信を持って輝くことが出来るよう、より一層努力してまいりたいと思います。

最後に、それぞれの場でご活躍されます皆様のご健康とご活躍を心よりお祈りし、お祝いの言葉とさせていただきます。

令和2年3月7日

岩見沢市医師会附属看護高等専修学校
五十三期生 代表



答 辞

厳しい寒さも少しずつ和らぎ、日ごとに春の訪れを感じるこの佳き日に、私達五十二期生は、二年間の過程を無事修了し晴れて卒業の日を迎える事が出来ました。

今日に至るまでの二年間は、とても長い様で一瞬だった様に感じます。思い返せば二年前の春、希望と不安を胸に入学式を迎えました。

三十代で看護を志した私にとって、聞き慣れない専門用語や、根拠のある看護技術、幾度となく訪れる試験への対策は、容易な事では無く、記憶力との闘いでした。

しかし、自分よりも若い皆が仕事と両立しながら、要領よく勉学に励む姿、自分より年上の皆が家事や育児を抱えながら、必死に奮闘する姿には、自分もこんな事で負けていられないと刺激を受けました。又、何でも話せた自分と同世代の友人達とは、互いに切磋琢磨しながらも勉強法を共有し合い、そんな時間が、どれほど心の支えになったか計り知れません。

私には正直、これまで何かを必死にやり遂げたという記憶がありません。もちろん、小中高では勉学に励みもせず、成績は不振でした。そんな私が、必死に机に向かう姿を見て、家族は驚き、いつも「少し休んだら？」と心配されていました。

辛い道のりを乗り越え、この日を迎えられたのは、年齢は違えど互いに励まし合い、同じ目標を持ち、同じ時間を共有してくれた皆が居たこと、そしていつも協力し、側で支えてくれた家族という存在があったこと、心から感謝するばかりです。

臨地実習の直前には、私が看護を目指す事を誰よりも応援してくれていた曾祖母が旅立ちました。前日まで元気だった曾祖母の旅立ちを中々受け入れる事が出来ないまま実習に臨みましたが、私が目指す看護という仕事は、常に人の死と隣り合わせである事、だからこそ、その人の人生をその人らしく過ごせるよう最大限にサポートしていく事が大切なのだと思えました。

実習では、力不足に気付かされ、根拠の無い看護ばかり展開する私に、担当教員からは、指摘を受ける事もありました。それでも、根気強く指導を下された諸先生方、病棟指導者様、そしていつも笑顔で逆に元気づけて下さった患者様には感謝の気持ちで一杯です。卒業生を代表し、心よりお礼申し上げます。

睡眠時間を割き、必死にもがいた臨地実習も、今では懐かしい思い出ではありますが、この学校で得た学び、今この場に立つ気持ちと、関わって下さった全ての人々への感謝を忘れる事無く、それぞれのスタートラインから、一歩ずつ進んでいきたいと思えます。

最後になりますが、校長先生、諸先生、在校生の皆様のご健闘、ご多幸ならびに、本校の益々のご発展をお祈りし、答辞といたします。

令和2年3月7日

岩見沢市医師会附属看護高等専修学校
第五十二期生 代表

卒業生総数

(令和2年3月現在)

卒業年	期 別	人 数	卒業年	期 別	人 数
昭和					
44.3	1期	19名	8.3	28期	51名
45.3	2期	27名	9.3	29期	52名
46.3	3期	27名	10.3	30期	53名
47.3	4期	40名	11.3	31期	55名
48.3	5期	31名	12.3	32期	46名
49.3	6期	46名	13.3	33期	55名
50.3	7期	33名	14.3	34期	48名
51.3	8期	27名	15.3	35期	50名
52.3	9期	48名	16.3	36期	51名
53.3	10期	41名	17.3	37期	45名
54.3	11期	28名	18.3	38期	47名
55.3	12期	39名	19.3	39期	32名
56.3	13期	54名	20.3	40期	37名
57.3	14期	44名	21.3	41期	38名
58.3	15期	54名	22.3	42期	38名
59.3	16期	50名	23.3	43期	40名
60.3	17期	52名	24.3	44期	40名
61.3	18期	48名	25.3	45期	40名
62.3	19期	51名	26.3	46期	37名
63.3	20期	51名	27.3	47期	36名
			28.3	48期	37名
平成			29.3	49期	36名
元.3	21期	51名	30.3	50期	39名
2.3	22期	57名	31.3	51期	38名
3.3	23期	58名			
4.3	24期	58名	令和		
5.3	25期	56名	2.3	52期	34名
6.3	26期	56名			
7.3	27期	57名		計	2,278名

